ウエルハーネスだより

２２１号

上尾市向山１－14－7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和６年10月25日発行

理事長からのことば

予想どおり、一気に寒くなってきました。とはいえ、２５度を超え真夏日になる日もあります。四季の移り変わりといった情緒はもう望めないのかもしれません。紅葉も遅くなりそうです。色づかないまま落葉ということもありそうですね。その中で明るい話題、秋刀魚の水揚げが好調のようです。ただし、来年以降は不漁になるとのことなので、今年しっかり味わっておいた方がよいようです。

さて、今月も『朝日新聞』be on Saturday の松本一生先生の連載『認知症と生きるには』から『「私、計算ができないです」買い物のたびに伝えた認知症女性の勇気』です。

人は自分が誇りに思うことなら他人に打ち明けやすいものですが、自分が恥ずかしいと思うことをあえて開示するには大きな勇気が必要です。今回紹介するのは、認知症の初期段階にあった女性の決意です。いつものように個人情報保護のために事実の一部を変更し、仮名で紹介します。

篠原和子さんは 1993 年、私が認知症を主に診るメンタルクリニックを開設した直後にこられました。当時 76 歳。夫を見送って 6 年目、一人暮らしでした。記憶が保てないことや計算がうまくできないことを悩んでいました。

CT による画像診断と諸検査によって認知症かどうかを診断しました。私は「結果を自分で知りたいですか」と聞いた上で、アルツハイマー型認知症が始まっていること、悪くならないように他人との交流を続けることが大切であることを伝えました。

すると彼女は「日々の計算がうまくいかないため、レジの後ろに立っている人から『早くしろ』とせかされるのが不安です」と話しました。

まだ社会の中で生活する認知症の人への配慮は、現在のように広く理解されていませんでした。

私が初めてアメリカにホームステイした高校１年の夏、言葉が半分以上わからず、「僕はまだ英語がよくわからないので、ゆっくり話してください」と言ったことを彼女に伝えました。

すると彼女の表情が明るくなりました。そして「先生に白状したら、少し気分が楽になりました。私も『自分は病気なので』と積極的に相手に伝えてみようと思います」と返事が返ってきました。こうも言いました。「私はこれができないと知らない人に話すことで私の勇気を示せるかもしれません」

毎月、受診の際にどの程度自己開示ができたかを聞きました。

「先日スーパーマーケットの店員さんに、私は認知症が始まっていて助けてほしいと伝えたところ、泣き出してしまったのです。その店員さんは、祖母の物忘れを信じたくないあまり、叱責を続けていたことを話してくれました」さらに店員さんは「これからはぜひ協力させてください」と。

たとえ認知症が始まっても、その後のその人の生き方が周囲の人に勇気を与える瞬間を見た気がしました。私が、「認知症はなったら終わりではなく、なってからが勝負！」と言っているのは、認知症に立ち向かった人々から勇気をみせてもらったからなのです。

何だか認知症って、その人の在り方、生き方を表す病気なのかもしれません。人の暗いところ、明るいところ、もって生まれたところ。優しい自分でありたいと思います。

１０～１１月の行事

10/18 に秋の行事食として、
きのこご飯/和風ミネストローネ/サーモンのコーンマヨ焼き/豚肉とれんこんの甘辛炒め/秋野菜のサラダ/マロンババロア
を召し上がっていただきました。

デイサービスでは、オカリナ演奏やマリンバ演奏のボランティア様にお越しいただきました。他にも上尾カルタや運動会等のさまざまなレクリエーションをおこないました。

特養では、お茶会やハロウィンパーティーのレクリエーション等をおこないました。

１１～１２月の予定

11/26～11/28 でおやつバイキングを実施する予定になっております。

デイサービスでは、クリスマスに向けて制作をおこなう予定のほかさまざまなレクリエーションを企画しております。

特養でも様々なレクリエーションを企画しております。

デイ・特養：お誕生日会

特養：お茶会・ハロウィンパーティー

デイ：上尾カルタ・運動会

10 月の行事食